

篠山市内の古民家を宿泊施設に改修する「篠山城下町ホテル構想」を進める一般社団法人ノオト（同市）は8日、事業主体となる企業を設立したと発表した。官民ファンドと但馬銀行（豊岡市）が投融資する。国家戦略特区の規制緩和を活用し、資金調達のためが付いたことで、10月に4棟で計10室を同時開業する。

（井垣和子）

古民家活用の会社設立

但馬銀などが投融資

ノオトは関西圏の特区内で唯一、古民家活用分野の事業者に認定されている。特区では宿泊施設で従来1棟ごとに必要だったフロントの設置が免除される。

新しく設立した株式会社は「NOTEリノベーション&デザイン」。篠山市に本社を置き、代表はノオト理事の藤原岳史氏が就いた。同社は篠山の江戸期などの空き家を取得か賃借して4棟を改修し、客単価3万円程度の高級旅館を展開する。

投融資するのは、政府系の地域経済活性化支援機構と日本政策投資銀行などが設立した官民ファンド「観光活性化マザーファンド」。但馬銀行も協調融資する。投融資額は非公表。古民家は担保

篠山城下町ホテル構想



国家戦略特区の認定を受け、改装後に旅館として開業する江戸期建築の古民家＝篠山市西町

一般社団法人ノオト 10月に4棟開業



古民家宿を開業すると発表するノオトの金野幸雄代表理事（右から2人目）ら＝篠山市黒岡、市民センター

価値が低く、再生資金は自治体などの補助金に頼っていたが、官民の資金を獲得でき事業の加速が見込まれる。

関係者は8日、篠山市内で記者会見を開き、同ファンドを運営するレビックキャピタル（東京）の田中雅範社長は「古民家活用ビジネスの先駆けとして、地域活性化のけん引役を期待している」と話した。ノオトの金野幸雄代表理事は「古い建物の改修が増えれば、地元の大工や左官業の仕事創出と技術継承につながる」と述べた。